

文書館通信

16号

東御市文書館
令和4年
12月 発行



☎ 文書館直通 0268-67-3312

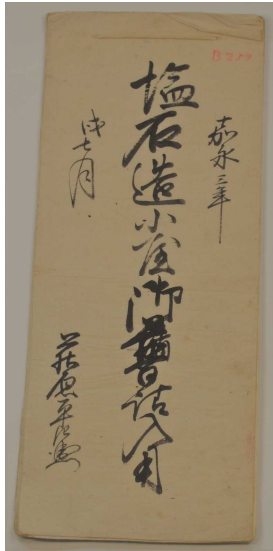
東御市教育委員会文化財係直通 0268-75-2717

✉ メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp

江戸時代、東御市に上田藩の火薬製造所があった事を、ご存じでしょうか。
今月は、火薬の製造に関係する中曽根村庄屋荻原家文書をご紹介します。

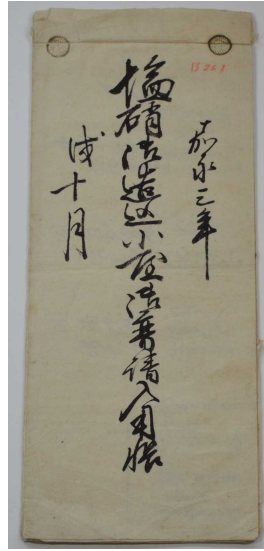
※塩石（えんせき）・
塩硝（えんしょう）
とは黒色火薬の主な
原料となるものです。
水に溶けやすいため
雨の多い日本では、
天然資源としては産出
しないため戦国武将たち
は中国からの輸入に
頼っていましたが、
江戸時代には土壌微生物
の働きを利用して作って
いました。

嘉永三年
塩石造小屋御普請入用
戊七月 荻原平左衛門

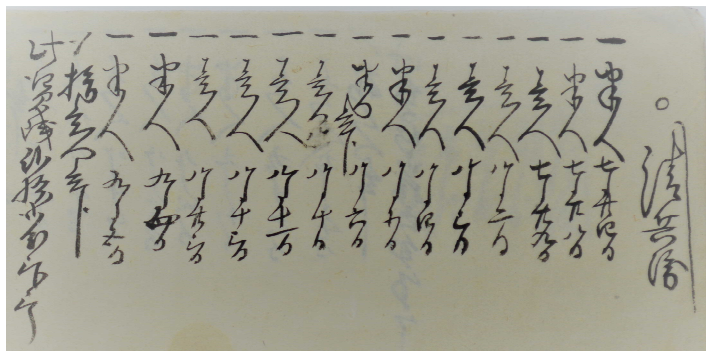


中曽根村庄屋荻原家文書 台帳No.1021-1
嘉永3 (1850) 年 7月

嘉永三年
塩硝御造込小屋御普請入用帳
戊十月



中曽根村庄屋荻原家文書 台帳No.1021-3
嘉永3 (1850) 年 10月

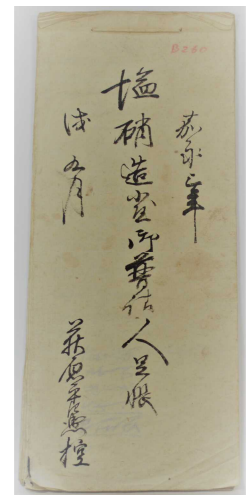


塩硝小屋を作る時の労働者は、中曽根村・栗林村・下吉田村・
下深井村・東上田・東田沢・海野宿から出ており、出勤月日と
半人（半日）か壱人（一日）かが記されています。

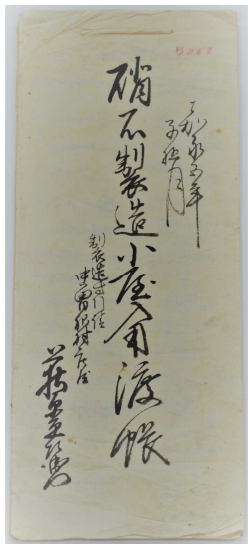
一日銀2匁（現在の賃金で4,500円ほど）が支払われています。

中曽根村庄屋荻原家文書 台帳No.1021-2 嘉永3 (1850) 年 9月

嘉永三年
塩硝造小屋御普請人足帳
戊九月 荻原平左衛門

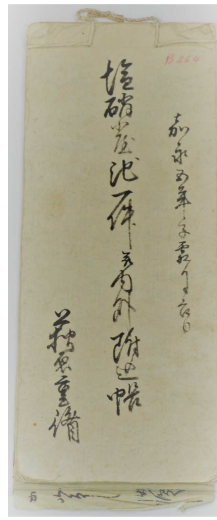


硝石製造小屋入用渡帳
 嘉永五年 子極月
 製造方引請
 中曾根村庄屋
 荻原平左衛門



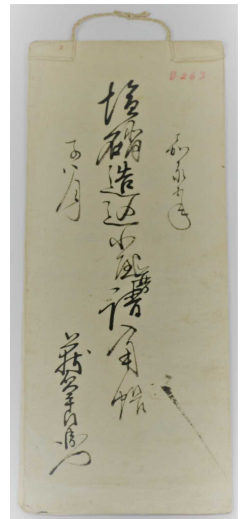
中曾根村庄屋荻原家文書
 台帳No.1022-1
 嘉永5 (1852) 年 12月

塩硝小屋池一件并内外附込帳
 嘉永五年子霜月吉日
 荻原重脩

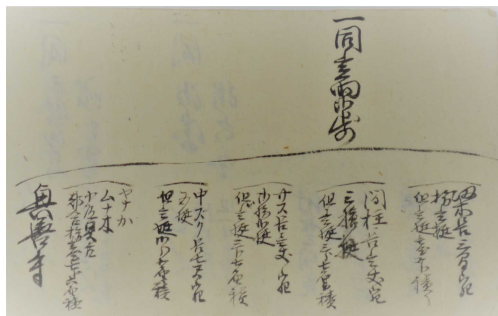


中曾根村庄屋荻原家文書
 台帳No.1022-3
 嘉永5 (1852) 年 11月

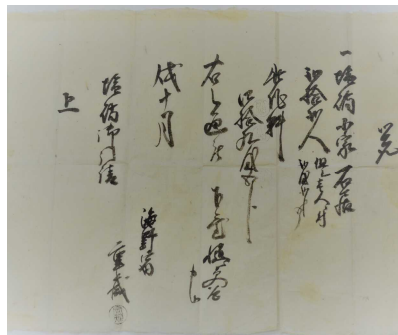
塩硝造込小屋普請人用帳
 嘉永五年 子八月
 荻原平左衛門



中曾根村庄屋荻原家文書
 台帳No.1022-2
 嘉永5 (1852) 年 8月

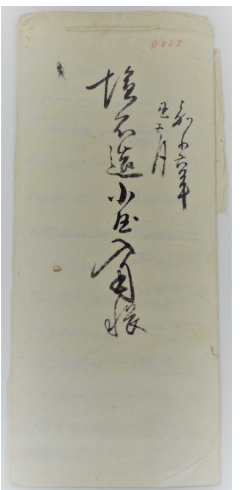


中曾根村庄屋荻原家文書 台帳No.1021-3
 嘉永3 (1850) 年 10月



中曾根村庄屋荻原家文書 台帳No. 1527

塩硝造小屋入用帳
 嘉永六年 丑五月



中曾根村庄屋荻原家文書 台帳No.1023
 嘉永6 (1853) 年 5月

塩硝小屋造りには、屋根師や大工にも賃金が支払われており、建材木は多くを興善寺（こうぜんじ）

海野宿の住人には塩硝小屋石蔵の作料として取りまとめて、延べ22人に一日一人当たり銀2匁2分5厘が、支払われていたことが判ります。

一塩硝小覚
 式拾式人 但シ老人二付
 此作料 式匁式分厘
 右之通被下置 九匁五分
 戊子月 申受候取
 塩硝御引請
 海野宿 重蔵

【文書館展示ご案内コーナー】

明治24年に、和（かのう）村栗林地区の竹内茂市氏により養蚕で使う蚕巢（こす）編機が発明され、実用新案登録を得ました。それまで手折りや、板に四本棒を立てて作るという原始的な作業でしたが、これにより養蚕家は非常に便宜を得たと言われています。

参考文献）1963『和村誌 現代編』和村誌編纂委員会



蚕巢（こす） 目録No.716



蚕巢編機 目録No.423

※塩硝の作り方には、蚕の糞や人尿野草など、各地で工夫され秘伝と言われ、当地について判る史料は未確認です。